

景況レポート

(1月分・情報連絡員80名)

景況DI値が大幅に下落

【概況(全体)】

1月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが2.5%(前回調査7.5%)、「悪化」が36.3%(同30.0%)で、業界全体のDI値は-33.8となり、前月調査と比較し11.3ポイント下回り、平成28年5月以降で最低の水準となった。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、製造業・非製造業ともに全国及び東北・北海道ブロックを下回り、低調に推移した。

【業界別の状況】

業界別では、繊維業や小売業で業況の悪化割合が縮小した。一方、鉄鋼・金属や建設業、運輸業では景況感が後退した。

なお、全体の景況感は、需要の減退や個人消費の低迷等により景気回復を感じられない状況が続いていることに加え、全国的な寒波も実需の減退と生鮮品価格の高騰を長引かせていることから、中小企業の先行きは先進各国の情勢も含め、注視していく必要がある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-33.8	-24.9	-28.6
製 造 業	-28.2	-22.3	-24.6
非製造業	-37.5	-26.9	-30.9

<景況天気図>

項目 業種	業界の景況	売 上 高	販 売 価 格	取 引 条 件	資 金 繰 り	雇 用 人 員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 くもり △10以上 △30超 10未満 雨 △30超 △10未満 雷雨 △30以下

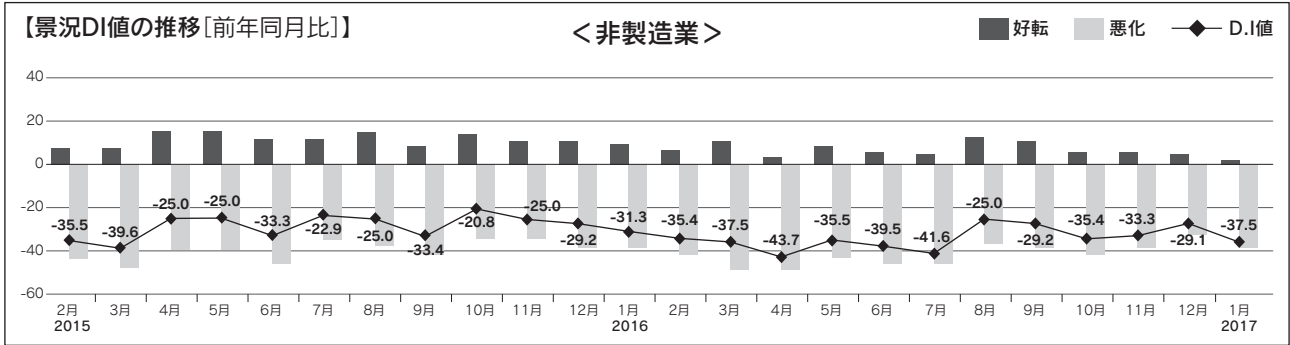
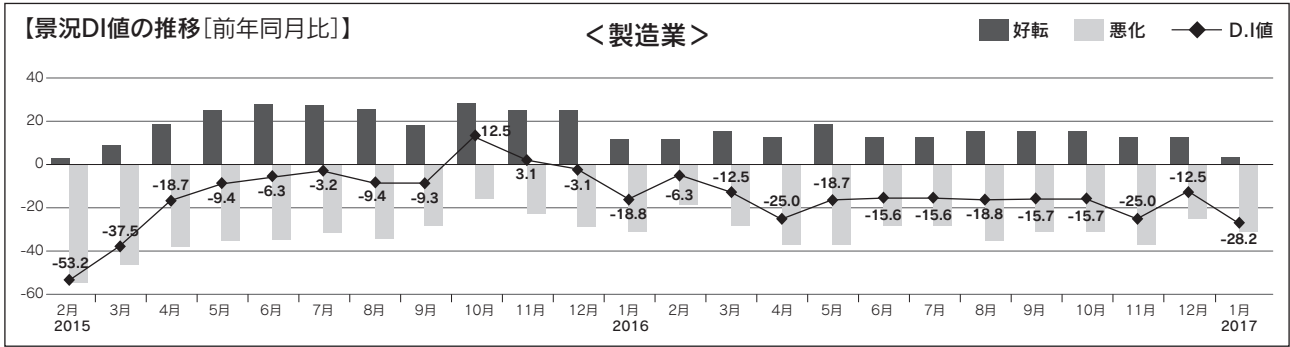
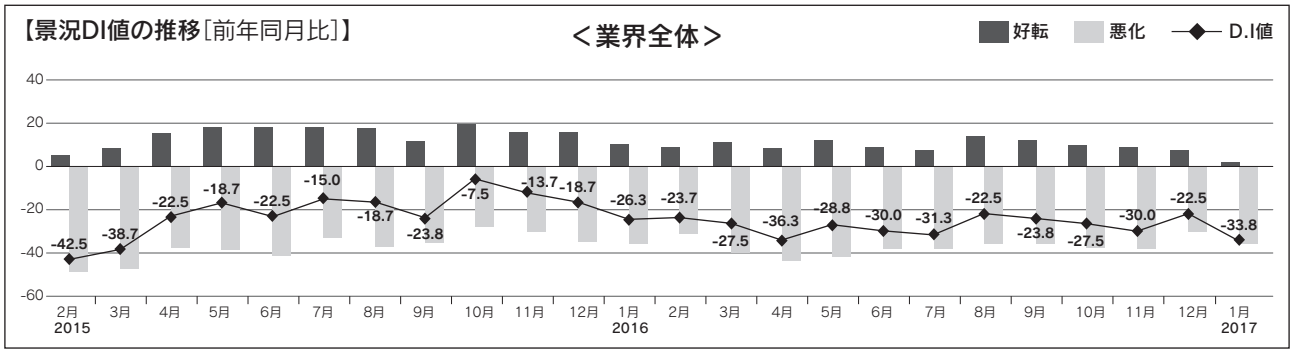
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (米飯給食)	1月の売上は、前年同月比94.5%で推移した。特注弁当は、イベントの減少により受注が減少し、宅配弁当も減少となった。また、収益についても、作業工程の変更により生産効率の改善が見られたものの、人材確保による賃金や修繕費の上昇等により減益となる見込である。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	春物生地が動き出しているものの、前年の受注状況と比較すると動きは鈍く、先行きは不透明である。
織 維 工 業 (織 維)	婦人服の受注はあるものの、デザインの多様化に伴い生産数が減少傾向にある。今後も納期を調整しながら、取り組んでいきたい。(県南地区)
木材・木製品 (素材生産)	生産量は、前月同様に横ばいで推移している。また、用途別では一般製材用素材は不足の状態となっているが、合板用素材は余剰となっている。
木材・木製品 (外 材)	1月は、秋田港に南洋材2,525m ³ の入港があった。平成28年の外材入港総量は前年比70%となる29,569m ³ (秋田港26,092m ³ 、船川港3,477m ³)であり、原料の国産材化が進む中、過去5年間を見ても同様の減少傾向を示している。一方、構造用厚物合板を中心に合板需要の堅調さが続いており、国内メーカーは増産体制を継続している。
印 刷	スポット物件の減少と単価の下落により、売上は低調に推移している。(県南地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	1月の出荷数量は、前年同月比88.7%で推移した。また、4月～1月の累計では同92.2%となった。11月～12月は前年実績を上回ったが、1月は積雪の影響により減少したと考えられる。今後、天候の状況による発注工事の遅れが懸念される。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	見積物件が極端に減少しており、今後の新規受注も厳しい状況にある。
一 般 機 器 (金属加工)	受注が上昇傾向にあり、業況は活発に推移している。しかし、依然として短納期が多く対応に苦慮している。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	依然として、弁当箱の売上が好調を維持している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	1月は、鉄価格に変動はなく、海外の取引価格が下落している。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり132円80銭で前月比1.2円の値上がり、軽油は1ℓあたり111円50銭で前月比0.4円の値下がりとなった。配達灯油は18ℓで1,362円で前月比67円の値下がりとなった。原油コストが値下がりしたが、今年度前半に利益が取れない月が続いており、ガソリンについては後半での収益確保により横ばいで推移している。
小売業 (花卉小売)	1月は、前月同様に卸・仲卸の売上は増加傾向にあるが、価格が高騰しているため、消費が上向きであるとは考えにくい。また、プレミアム商品券によりある程度下落を防ぐことができたものの、各小売店舗では売上の減少が続いている。
商店街	全体の売上は、前月同様に減少傾向にある。空き店舗を活用したい旨の引き合いはあるものの、結果が出ていない状況である。(秋田市)
サービス業 (タクシー)	速報値では、前年同月比で運行回数が98.2%、運送収入が99.7%と前年同月を下回ったが、悪天候の影響によりタクシーの利用客の減少が抑えられた。しかし、注文が時間帯によって集中するため、乗務員不足によりお断りしていることが多い状況である。
建設業 (管工事)	昨年度の発注工事も終了し、資材の動きが減少傾向にある。(由利本荘市)
建設業 (電気工事)	大型受注物件がなく、一般住宅の着工も低調に推移している。(秋田市)
運輸業 (トラック)	1月は売上、収益ともに前年同月比より減少している。また、燃料価格が値上がり、今後の収益状況の悪化が懸念される。(県南地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	冬期間になり、骨材の動きは鈍くなっている。昨年は継続的な受注があったものの、今年はなく、例年以上に厳しい状況である。(県南地区)